

海事立国フォーラム in 長崎 2025

カーボンニュートラル社会の実現のために 国際海運企業が果たす役割 ～社会インフラ企業として～

カーボンソリューション事業群
カーボンソリューション事業開発ユニット
シニアエキスパート
田口 真一



2025年11月14日

自己紹介



昨年、南アフリカ・ケープタウンで開催された
世界経済フォーラムの会合のパネル討議に参加。

株式会社商船三井
カーボンソリューション事業開発ユニット
シニアエキスパート

田口 真一

五島・福江島生まれ

北陽台高校卒業後、関西で学生時代を過ごす
ドイツ・南アフリカ・米国にて研修・駐在

横浜・コンテナ事業・自動車船事業・
工務部・調査部、再度自動車船事業を経て、
4年前から次世代エネルギーバリューチェーン
構築に関わる。

技術経営修士
日本LCA学会会員

商船三井グループ企業理念

青い海から人々の毎日を支え、
豊かな未来をひらきます

Group Vision

海運業を中心に様々な社会インフラ事業を展開し、
環境保全を始めとした変化する社会のニーズに
技術とサービスの進化で挑む。
商船三井は全てのステークホルダーに新たな価値を
届け、グローバルに成長する強くしなやかな
企業グループを目指します。

2050年
グループ全体で
ネットゼロ・エミッション達成
を目指します

Scope1, 2, 3の全てが対象(本社+連結子会社)



商船三井グループ船隊構成（2025年3月時点）

その他（多目的船・フェリー・客船など）



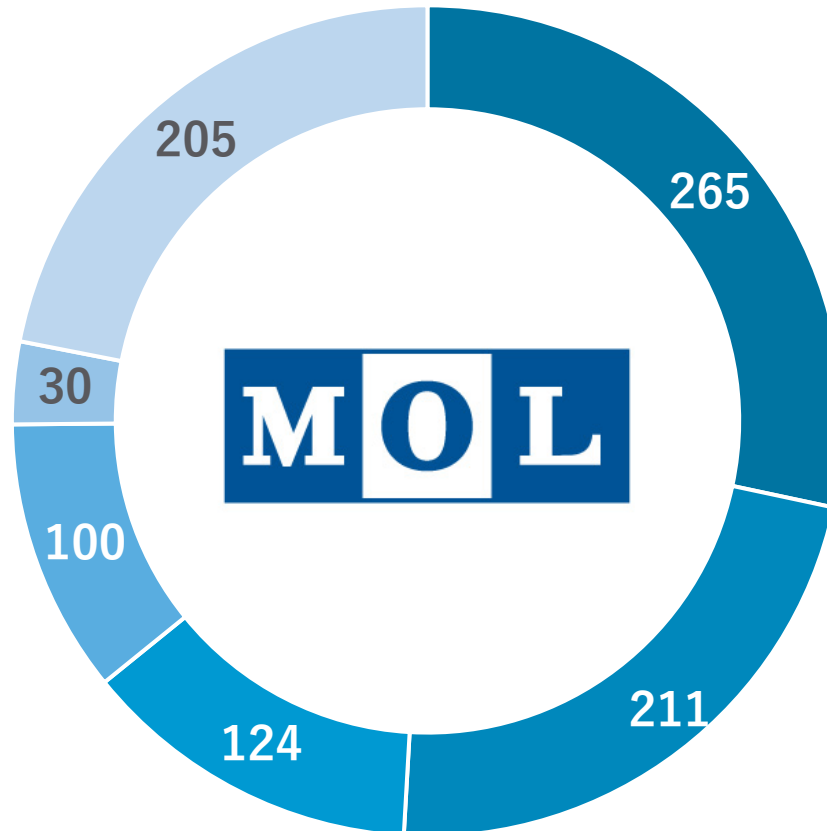
コンテナ船(*)



自動車運搬船



900隻以上を運航・保有し、
世界の様々な産業との繋がりを持つ
LNG船保有隻数では**世界第1位**。



(*)商船三井を含む邦船社3社は、2017年7月にコンテナサービスを Ocean Network Express(ONE)ブランドに統合した。

ばら積み船



タンカー



LNG輸送船・LNG-FSRUなど



商船三井 2025年3月期 決算説明資料

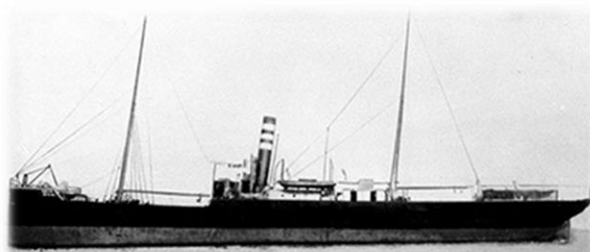
長崎における商船三井グループの歴史 エネルギー & 造船・海洋関連産業との長く深い関わりを持つ



1890年以降、三菱長崎造船所で
LNG船・コンテナ船・自動車船など
150隻以上を建造

1878

口之津-上海間石炭輸送開始



三井物産（のちに三井船舶）は
口之津に支店を置き、三池炭の
海外輸送（口之津-上海間）
を開始

1939

「あるぜんちな丸」「ぶらじる丸」を
三菱長崎造船所にて建造



大阪商船が、当時の日本造船技
術の粋を集めて建造した代表的貨
客船で南米航路に就航

2022

硬翼帆搭載第1船が
大島造船所にて竣工



2022 大島造船所にて“ウインド
チャレンジャー帆”(硬翼帆) 搭載
第1船が竣工、運航開始

2023

長崎県・市と造船関連・再生可能
エネルギーに関する連携協定締結

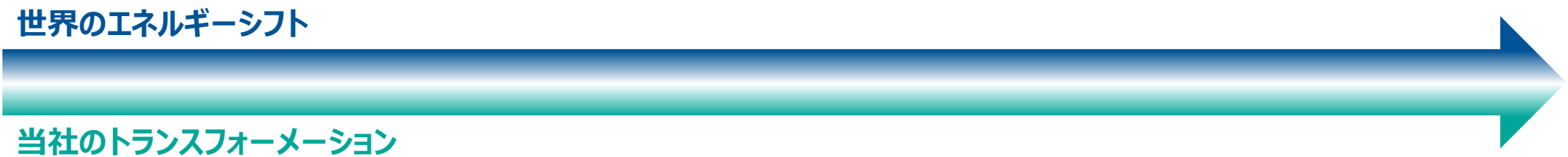


官民協働して長崎県のプレゼンス向上
と県内企業の新たな価値創出

2050年カーボンニュートラル社会実現に向けた商船三井グループのアプローチ
グループ総力を挙げた低・脱炭素事業の拡大

既存の海上輸送でのCO2排出の削減のみならず、
新規領域での事業展開を通じて、社会の排出削減へも貢献します。

世界のエネルギーシフトの波をとらえ、上流から下流までクリーンエネルギーのサプライチェーンに貢献する
“海洋クリーンエネルギー事業”へのトランスフォーメーションを目指します。

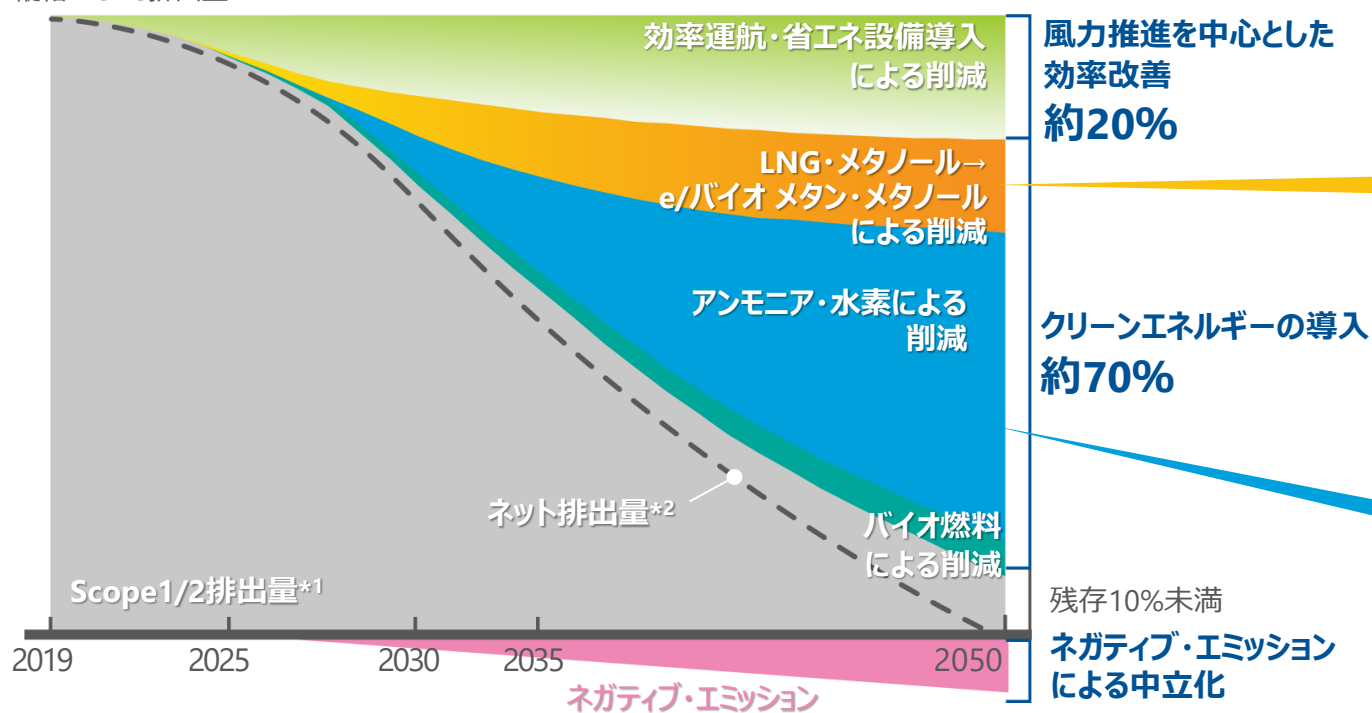


出所：当社HPより抜粋

2050年カーボンニュートラル社会実現に向けた商船三井グループのアプローチ 2050年ネットゼロ・エミッションへのロードマップ（自社排出の削減）

- ◆ 自社需要が見込まれる船用燃料の中でも、短期的には**バイオディーゼルやバイオLNG**などのバイオ燃料、中長期的には**クリーンアンモニアやクリーンメタノール**を注力領域として取り組みます。
- ◆ 削減しきれないGHG排出量は、**将来的には自社開発を含むカーボンクレジットにて相殺**し、2050年までのネットゼロエミッション達成を目指します。

縦軸：GHG排出量



LNG燃料自動車船



アンモニア燃料船

*1 対象範囲：商船三井と全ての連結子会社。2050年のネットゼロ目標にはScope3も含みます。

*2 2050年までの途中年における排出量算出においては、ネガティブ・エミッションによるオフセットは行いません。

- ネットゼロ・エミッションの実現には、**効率改善と削減技術導入によるエネルギー消費全体の削減**と併せて、**電源部門での再エネ由来電源の拡大**、さらに**輸送・民生・産業(非電力)部門**では**電化またはバイオ-/e-メタン・水素・アンモニア・合成燃料等**の利用を通じた**脱炭素化**が必要となります。
- **電化の困難な分野**では、**バイオ-/e-メタン・水素・アンモニア・合成燃料等**その特性に合わせた活用が見込まれます。輸送部門の**燃料(航空・船舶、大型車両等)**としての利用、産業部門の**高温の熱源(工業炉等)**や化石燃料に代わる**原料(鉄鋼、化学品等)**としての利用などが期待されています。

		ネットゼロ・エミッション 実現に必要なこと	次世代エネルギー活用方法
発電部門		再エネ由来電源の 拡大	水素・アンモニア発電など
非発電部門	輸送部門 	電化または バイオ-/e-メタン・水素・ アンモニア・合成燃料等の 利用を通じた脱炭素化	車両輸送・航空・船用など
	民生・業務部門 		家庭用
	産業部門 		熱利用(バーナー、ボイラー・金属加工等) 製鉄・基礎化学品合成

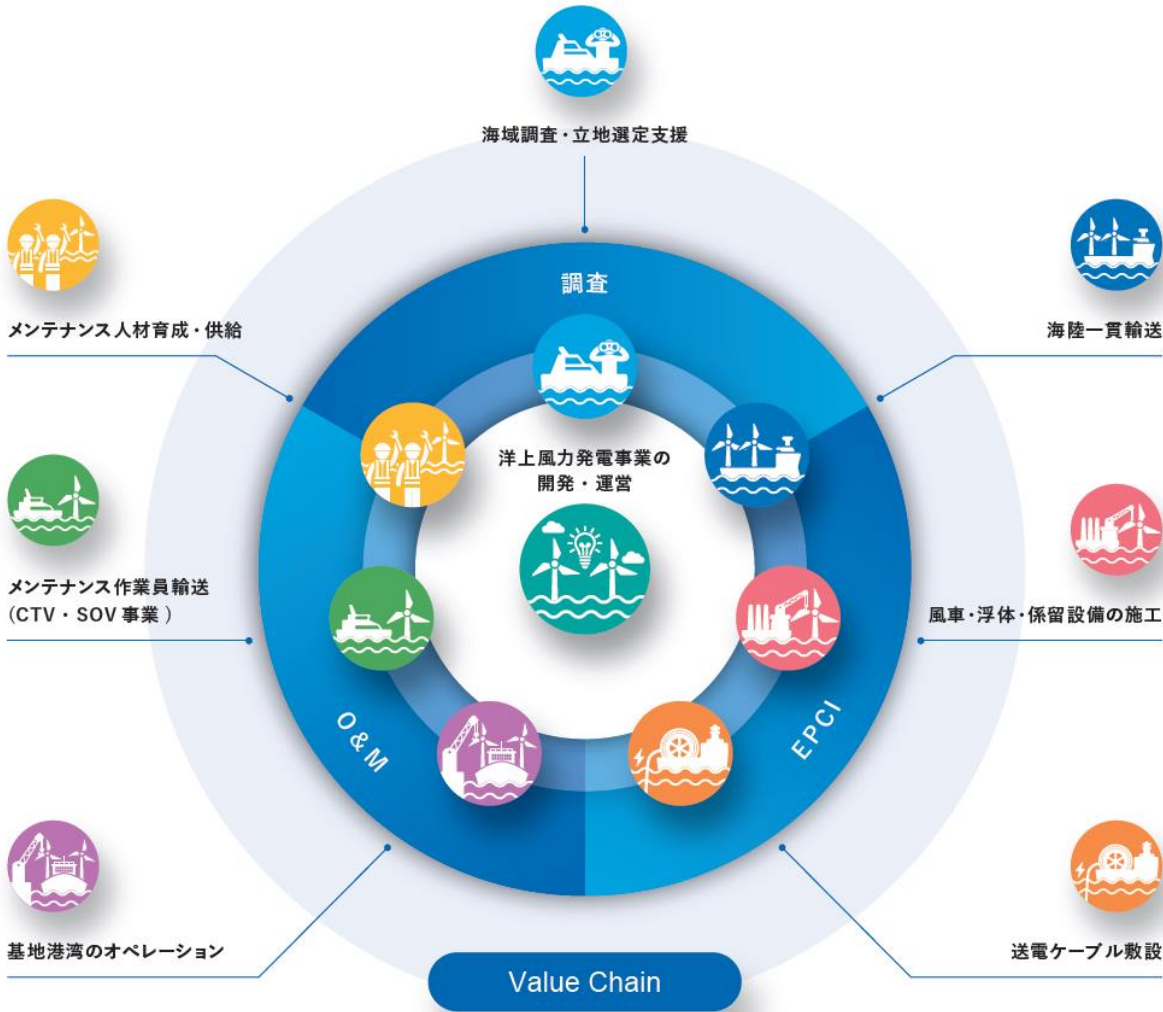
2050年カーボンニュートラル社会実現に向けた商船三井グループのアプローチ 社会インフラ企業として次世代エネルギーバリューチェーン構築に寄与（社会の排出の削減）

商船三井はグループは、**ネットゼロエミッション社会の実現に貢献**するソリューションを提供します。



2050年カーボンニュートラル社会実現に向けた商船三井グループのアプローチ
社会インフラ企業として洋上風力発電バリューチェーン構築に寄与

海域調査・立地選定、海陸一貫輸送、建設・設置から運用 & 保守まで、洋上風力バリューチェーン全体の構築に貢献します。



Thank you for listening!

Shinichi.taguchi@molgroup.com

<https://www.mol-service.com/>